

第5回 和束町第5次総合計画審議会

議事録

日時：令和3年8月4日（水）15時10分～16時10分

場所：和束町商工会館 研修室

出席者（11名）

出席委員：藤井委員、濟藤委員、荒木委員、村田委員、中川委員、姫野委員、
大西（研）委員、村城委員、岡田（文）委員、盛上委員、湊委員

欠席委員：井上委員、岡田（周）委員、大西（隆）委員、西田委員、奥委員
北委員、吉田委員、西村委員、澤委員

事務局：岡田課長、宮木担当課長、（株）ぎょうせい3名

【配布資料】

資料1：和束町第5次総合計画の主な修正点について

資料2：和束町第5次総合計画に関する意見への対応について

資料3：和束町第5次総合計画（案）パブリックコメント用

資料4：第4回和束町第5次総合計画審議会議事録

資料5：パブリックコメント募集案内

次第

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

（1）報告事項

第4回和束町第5次総合計画審議会における議事録等について

会 長：ご質問ないか。

委 員：意見なし

（2）協議事項

前回審議会（ワークショップ）の意見を踏まえた総合計画（案）の検討について

会 長：説明を受けてご質問あるか。

濟藤副会長：73ページの林業のボランティアに対する施策の修正について、

危険な仕事であるにも関わらずボランティアが責任を取る立場になれるのか。現場との意識の差がありすぎる。ボランティアでない責任者を明確にするべき。

大西委員：森林組合の事務局だが、実際の作業を考えると林業を生業にしている方とボランティアを一緒に考えるのはいかがか。

事務局：ワークショップで大西委員からのご意見踏まえて、ボランティアが減っている中で、林業の良さを知ってもらう意味で「ボランティア育成に努める」と記載し、さらに「専門的な技術や知見の指導を得ながら」の文言を追加した。

会長：ボランティアのイメージは、企業が山に植栽していくことをイメージしたが、ここでの記載は実際作業をしていく人材として考えているということか。

事務局：林業の活性化につながる取組を進める中で、林業従事者が減少している実態がある。そこに興味を持っていただく観点で記載した。ただし、プロの仕事なので、ボランティアだけでは危険という意見を受けて、「専門的な技術や知見の指導を得ながら」の文言を追加したが、確かにボランティアがボランティアを育成し、さらに責任をとらなくてはならない状況となっている。

済藤副会長：ボランティアが危険な現場での責任をとることはできないと考える。

姫野委員：生産森林組合も以前は、組合員が参加して山の管理にあっていたが、素人がやるのが危険なので、専門的な人に作業をしていただくことに切り替えた。

会長：ボランティアの仕事にしては、危険が伴うということ。農業と林業は違うので、文言の修正が必要ではないか。

事務局：林業に興味を持ってもらい活性化させる意味合いであったが、表現に不足があった。

済藤副会長：作業の危険性を知って、安全に山に入ってもらうための教育ならば理解できる。

大西委員：森林組合としては、ボランティアが邪魔というわけではない。ボランティアのレベルにあった活動内容があればよい。

事務局：実際に作業現場を見て、森林の大切さや、それを守る林業の重要性を知ってもらう普及・啓発活動に内容を変更する。

姫野委員：今でも犬打峠の宇治木屋線に産業廃棄物の不法投棄が多いので、

犬打峠トンネルが開通するとともに増えると考えられる。環境保全を考える上で、ボランティアにパトロールをやってもらうのはよいのではないか。

事務局：75 ページに不法投棄のパトロール強化の施策がある。

済藤副会長：今の意見だと犬打峠の宇治木屋線に限られる。行政は現状が悪化しないと動かない実態がある。

姫野委員：不法投棄の場合、廃棄者が分かれば良いが、廃棄者を特定できない場合は最終的には山の所有者の責任廃棄が求められる。

会長：林業に関するボランティアの施策を再掲するなど対策していくのはどうか。難しい問題ではある。

姫野委員：今でも不法投棄が多いので、トンネルが開通すれば利用者も減少することから、これからますます不法投棄が増えると考えられる。観光と環境を含めてネガティブ面の対策が必要。

会長：不法投棄のパトロールなどの仕事は府それとも町の仕事か。

事務局：町独自の事業として、府道木津信楽線については週3回程度回収作業も含めて実施している。三国林道や鷲峰山林道は管理を和束町の森林組合にお願いしているところだが、年3～4回パトロールしている状況。

大西委員：ごみ拾いの他に倒木処理をしている。京都府から不法投棄があれば報告することとなっている。

岡田（文）委員：防犯カメラを付けるなどして、入口と出口での荷物の量を確認するなどにはできないか。一度、カメラが付いていることが知れ渡ったら、ここの山はやめておこうとなるのではないか。

済藤副会長：防犯カメラの配線が切られて効果が無いかもしれない。

会長：不法投棄は頻繁にあるのか。

岡田（文）委員：ごみの種類は色々あるが、結構量はある。

岡田（文）委員：第4次総合計画より交流人口が5万人多い30万人となっているが、受け皿がないと書いている。これからどのように整備していくことを考えているのか。1日あたり観光バス15台分程度の人数をどこで受け入れられるのか。

事務局：犬打峠トンネルの開通によって、人の流れが変わることもあるが、町内の受け皿をどうするかが、総合戦略でも課題になっている。今回の計画に環境整備をどのように進めていくかを明記することで、次のステップに進めると考えられる。

岡田（文）委員：今までもの総合計画にも記載されているが、絵に描いた餅にな

っている。観光を考えるには、和東茶カフェや交流ステーションは小さすぎる。

濟藤副会長：住民から意見が上がっているが、取組が進んでいない状況がある。交付金をもらうために記載しているのか。

事務局：ハード面では、この施設ができたなら受け皿何万人が確保できるなどといった交付金の受け方はあると考えられる。手段とすることもあるが、今の意見のとおり具体的な根拠を示す必要があると考える。現在の観光入込客数はゴルフ場も含めて計上している。令和元年までは19万人程度数字として出ている。プラス10万人程度の受け皿をどのように整備するのかを考えていく必要がある。これからの10年間で毎年目標人数を上げていくのか状況を見極めながら進めていきたい。

岡田（文）委員：いずれにしても犬打峠トンネルができたあと、観光業界を考えて施設をしっかりと作っていく必要がある。

濟藤副会長：道路だけ作っても施設がないと意味がない。

岡田（文）委員：湯船地区にも集まるところを作らないといけない。

濟藤副会長：和東町内を歩いて回っても休憩する場所がないという意見もある。

会長：様々な意見はあるが、交流人口30万人の受け入れの環境整備は必要ということになる。

会長：いただいた意見は、事務局でまとめて、事前に配布したのち、最後の会議にお示しする。

会長：最後の会議は8月24日15:00～が最終。次の会議で町長へ答申する。

4 その他

事務局：答申案は会長、濟藤副会長と調整し、事前に配布したのち、皆様からご意見なければ、会長から町長へ答申予定。答申の日程については、会長と町長のスケジュールを調整して決定する。決定したのち委員に連絡する。

姫野委員：パブリックコメントの内容次第で大きな修正があれば、次で終わらない可能性はあるか。

事務局：今のところ大きな意見はない。

岡田（文）委員：絵に描いた餅にならないように、しっかり計画を進めてほしい。

- 会 長：この計画は2部構成で、前半の総合計画、後半の総合戦略で構成されている。総合戦略が総合計画の基本計画の重点事業と位置付けられており、毎年見直ししながら進めていくことになっている。
- 済藤副会長：第4次を評価して第5次を作成しているのか。
- 会 長：2回目の会議で、第4次の評価から課題の説明があり、それを受けて第5次を作成している。
- 姫野委員：第4次総合計画の中で計画されていた総合保健福祉施設の進捗状況はどうなっているのか。
- 事務局：現在、基本計画までできたところ。本年の7月から総合施設整備課を創り、9月議会で基本設計の予算を計上する。令和6年の秋、町政70周年に完成を目指している。
- 姫野委員：和東民報に記載があるが、批判する意見もある。
- 事務局：プロジェクトチーム会議を役所の管理職、社協の事務局長、訪問看護師も入って事務局担当者レベルでも進めている。

4 閉会